

# 景気ウォッチャー調査

(沖縄地域)

2026年5月調査

## 【現状判断】

- ◆ 物価高や中東情勢の影響がみられたものの、観光需要を中心に景気は好調だったことから、現状判断DI値は「53.2」と好況を維持。

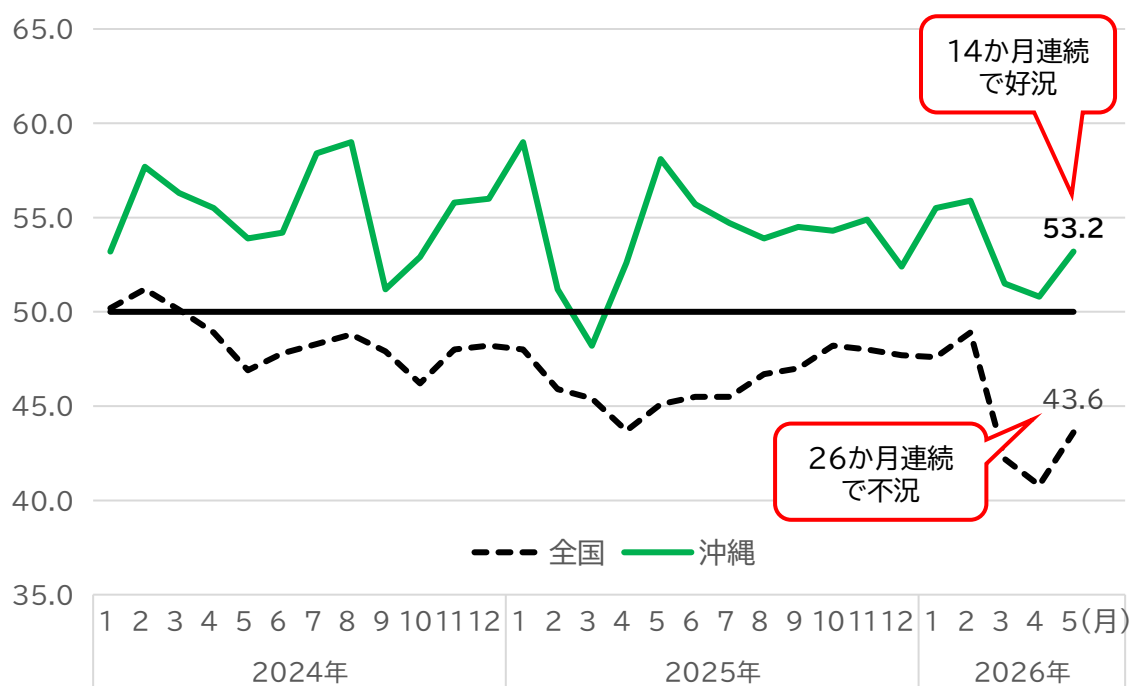
## 【先行き判断】

- ◆ 夏に向けた需要増加への期待感から先行き判断DIは「50.3」と「好況」となる見通しだが、物価や中東情勢の先行きへの不透明感は依然としてみられる。

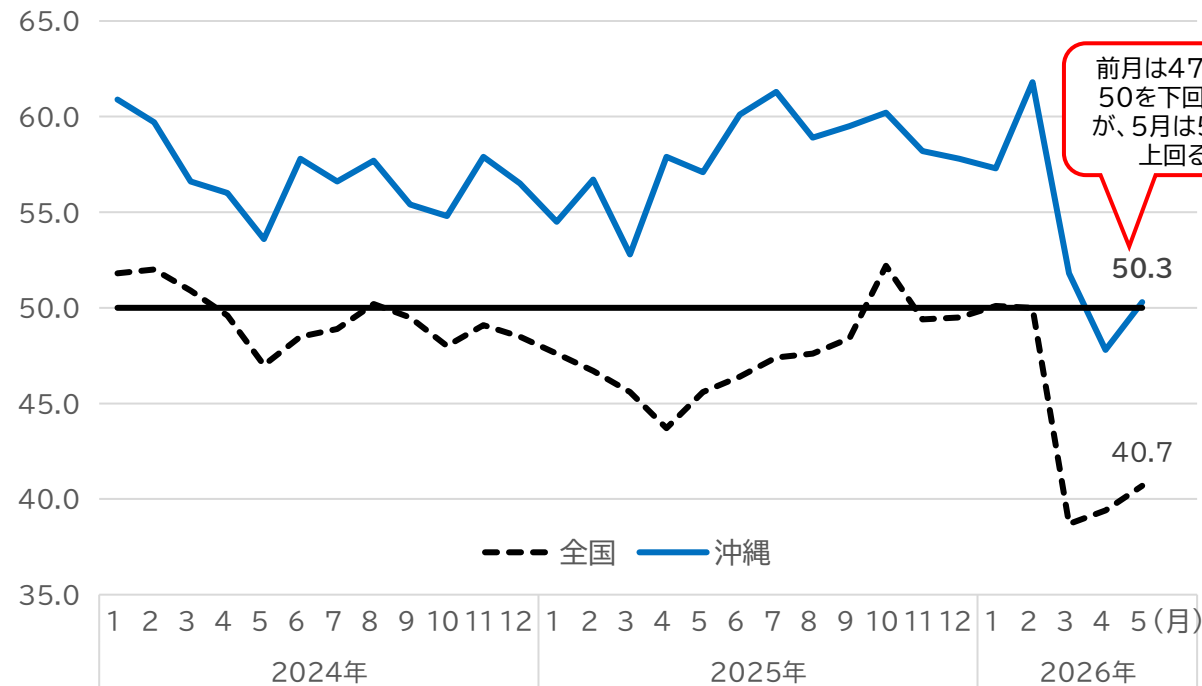
# DI値(季節調整値)の推移(2024年1月~2026年5月)

- 沖縄の2026年5月の現状判断DI値は、53.2(前月比2.4ポイント増)となっており、好不調の判断基準となる50を上回り、**14か月連続で好況を維持**している。他方で、全国は43.6と26か月連続で不況が続いている(図1参照)。
- 沖縄の2026年5月の先行き判断DI値は50.3(前月比2.5ポイント増)となっており、50を下回った前月から回復し、**好況の見通し**となった。全国は40.7と前月比で微増したものの、低水準が続いている(図2参照)。
- 沖縄県では現状と先行き共に、DI値は前月比で増加となった。特に、先行きは再び50を上回ったことから、今後は好況となる見通しである。

## 図1 現状判断DI値(季節調整)



## 図2 先行き判断DI値(季節調整)



# 現状判断のコメント（一部抜粋）

- 物価高や中東情勢の影響によるコメントが複数みられたものの、全体としては観光需要を中心に景気は好調と判断される結果となった。

（◎：良、○：やや良、□：不変、▲：やや悪、×：悪）

分野	業種	判断	判断理由
家計動向 関連	百貨店	◎	・ インバウンドや家族連れの来店が多く、店舗周辺の人流が増加している。
	観光型ホテル	○	・ 来客数は前年を上回り好調に推移している。また、客の消費額も前年を上回る状況が続いている。
	旅行代理店	□	・ 販売量は極端に減少していないが、物価高の影響で上向き要素がみられない。
	一般小売店	▲	・ 商品包装や、ビニール製品の価格高騰の対応に追われている。
	スーパー	×	・ 石油由来の製品類や包材類が値上げしているだけでなく、入手困難になりつつある。価格転嫁しようにも、競合店の出方を様子見の状態になっている。
企業動向 関連	輸送業	○	・ 大口荷主の契約により、景気はやや良くなっている。
	建設業	□	・ 中東情勢が不透明なため、建築資材や下請の見積りに影響が出ている。
	輸送業	▲	・ 中東情勢の影響により、燃料費や物流関連資材の価格高騰に加えて、物価上昇に伴う人件費の増加もあり、全体として原価負担が増加している。
雇用関連	求人情報誌 製作会社	○	・ エステや期間限定のレジャー関連において人員確保の動きが活発化しており、接客やサービス業全体の求人数は3か月前と比べて20%増加している。
	人材派遣会社	□	・ 求人案件に対して求職者の動きが鈍く、マッチングにつながらない。

# 先行き判断のコメント（一部抜粋）

- 物価高や中東情勢の不透明感がみられるものの、一部業種では夏に向けて好況が期待されるコメントがみられた。

（◎：良、○：やや良、□：不変、▲：やや悪、×：悪）

分野	業種	判断	判断理由
家計動向 関連	家電量販店	◎	5月は前年横ばいだが、今年は <b>全体的にエアコン、冷蔵庫、テレビを中心に伸長する</b> 流れとみられる。
	その他飲食店	◎	<b>夏場は1年で最も繁忙になる時期なので、現状よりも景気は良くなる。</b> ただし、中東情勢による食料資材不足や原材料価格の高騰が懸念される。
	百貨店	○	本格的な <b>夏物衣料品需要の増加</b> が見込まれる。
	スーパー	○	3か月後に年間最大の商戦である旧盆を迎える。 <b>今夏は夏休みの観光需要が更に期待できることに加え、国による電気料金の負担軽減支援も再開される。</b> そのため、 <b>地元客・観光客共に消費マインドの底上げが見込まれる。</b>
	一般小売店 [土産]	□	今後はプラスチック製の包装や印刷物など、 <b>ナフサ由来の原材料等の入荷が困難になることを懸念</b> している
	コンビニ	▲	ナフサ不足や包材類の原料価格高騰により、 <b>販売価格を更に上げざるを得ない状況</b> である。
企業動向 関連	通信業	□	夏場の本格的な観光シーズンを迎え <b>好調が期待できる。</b> 他方で中東情勢を背景とした原油価格の高騰や、物価上昇に伴う家計の節約志向など先行きの不透明感は依然としてある。
	建設業	▲	<b>建築原価の上昇により受注が難しくなる</b> と考える。現在受注している案件でも <b>原価高騰の影響を受け始めている。</b>
雇用関連	求人情報誌 製作会社	▲	<b>2～3か月後は接客・サービス業やホテル業などが繁忙期を迎えるため、採用活動は抑制される。</b> また、物価高や燃料費の上昇に伴い、 <b>その他の業種でも採用活動を抑制する動きが広がる</b> とみられる。

# <用語の説明>

## 景気ウォッチャー調査

- 地域の景気を観察できる立場にある人々から、統計指標だけでは把握できない顧客の様子など日々感じている街角の景気動向を迅速に把握するため、毎月実施されている調査。

## DI値

- 物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方角性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回ると景気が好況傾向にあり、50を下回ると不況傾向にある。算出方法は、景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比(%)に乗じて、DIを算出している。

評価	現状判断	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
	先行き判断	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらともいえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	現状・先行き 共通	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

## 現状判断(景気の方角性)

- 3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気具体的な状況などの説明。

## 先行き判断

- 2~3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2026年5月13日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。

<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2026/0513watcher/menu.html>